

プログラム 1 森林教育活動を考えるワークショップ

【出典】『森林教育ってなんだろう？－森林での体験活動プログラム集Ⅰ』

森林教育とは－概念編』：p10～12（一部改変）

■ 概要

森林教育をより発展させるためには、活動の位置づけと、進んでいく方向を見定めることが重要です。そのためには、森林教育全体をとらえる座標軸が必要です。現在地点と目標の位置を見極めることができれば、目標に向けての道筋も見えてきます。基礎プログラム 40 種をもとに、森林教育の座標軸を探ってみましょう。

■ 学習のねらい

- ① 森林教育活動の指導者として、体験活動に関わる立場、目的を明確にする。
- ② 森林教育の指導者としての立場と活動目的にふさわしい活動内容を確認する。
- ③ 教育方法として、ワークショップの方法について実際の体験を通じて学ぶ。

■ 所要時間 ： 90 分

■ 準備するもの

- ・ 森林体験活動基礎プログラム 40 種カード（×グループ数分）

■ ポイント

- ・ グループの人数は 3 人がベストです。状況に応じて 5 人程度までのグループで行います。場合によっては、1 人でも行うことができます。
- ・ ファシリテータが声をかけすぎたりしてしまうと、自分から考える機会が減ってしまいます。時間をゆっくりとって、参加者が気づき、自らの考えに基づいて進めることが大切です。

注)ファシリテータ：進行役や引出し役となる人のこと。

進行役や教師・指導者ではなく、参加者の主体性（意欲・知識・経験等）を引出し、コミュニケーションを円滑に促進していく場づくりを担い、環境教育などでは、参加体験型のワークショップという学びの手法の中で進行役となる。

■ 活動の流れ

時間	主な活動	参加者の活動	道具, 材料	留意点 ファシリテータの活動
10 分	説明			ワークショップの趣旨と進め方を説明する。 立場・目的カードを配布。
5 分	立場と目的の確認(個人)	森林体験活動を行う立場と目的を考えてメモする。	立場・目的カード 資料 1-① ※事前に配置しておいてもよい。	進めにくい参加者には, 普段行っている活動やこれまでにを行った活動を例に考えるようにアドバイスする。 集中している場合は声をかけない。
10 分	立場と目的の確認(グループ)	個々の立場と目的を発表し, グループの立場と目的を決めてメモする。	立場・目的カード 資料 1-① ※事前に配置しておいてもよい。	ディスカッションに全員が参加できるようアドバイスする。 ディスカッションがスムーズに進んでいる場合は声をかけない。
5 分 ～ 10 分	解説 休憩		解説シート 資料 1-②	活動プログラムを選択し, 組み合わせるワークについて説明する。
30 分	活動プログラムの選択	立場と目的へのふさわしさでカードを分類する。	基礎プログラム 40 種カード 資料 1-③	ワークに全員が参加できるようにアドバイスする。 ワークがスムーズに進んでいる場合は声をかけない。
	活動プログラムの組み合わせ	立場と目的へのふさわしさでカードを組み合わせる。	基礎プログラム 40 種カード 資料 1-③	ワークに全員が参加できるようにアドバイスする。 ワークがスムーズに進んでいる場合は声をかけない。
10 分	発表	各グループワークの成果の発表。		成果を評価し, 実践を視野に入れた助言をする。
10 分	説明, まとめ			森林体験活動の多様さと実践につなげる道筋を理解できたことをふりかえらせる。

資料 1-① 立場・目的カード

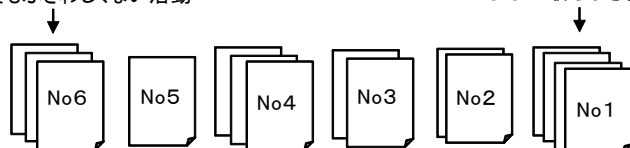
立場	目的
1 学校教育	1 自然環境保全
2 社会教育	2 青少年育成
3 森林・林業関係	3 森林・林業普及
4 NPO等市民	4 健康増進
5 民間企業	5 地域活性化
	6 生活環境改善
	7 その他()

資料 1-② 解説シート

解説シート(活動プログラムを選び組み合わせる)

カードを1枚ずつ見て、立場と目的にふさわしい活動を右側、ふさわしくない活動は左側、両者の中間と思う活動はその間に置きます。同程度と思う活動は重ねます。重ねたカードは後で分割してもよいでしょう。このようにして、いくつかのカード群ができます。

〇〇に最もふさわしくない活動



〇〇に最もふさわしい活動

全てのカードを配置し終わったら、一番右側にある最もふさわしい活動の中から、あなたの実践に合うものを1枚選びます。その活動をプログラムの中心に据える場合、その前後にどんな活動があると、活動が深まるでしょうか、あるいはより幅広く充実した活動が展開できるでしょうか。一番右側のカードにこだわらず、組み合わせを考えて探してみましょう。実際にカードを並べ替えていくうちに、具体的な実践プログラムの姿が見えてきます。

資料 1-③ 基礎プログラム 40 種カード(1)

1 自然を利用した遊び 秘密基地や隠れ家づくり、木登り、落ち葉遊び（落ち葉の山の上で飛び跳ねるなど）、草花遊びなどをします。	2 自然に親しむゲーム 自然に親しみ、気づきをはぐくむゲームをします。	3 自然に親しむ散歩、散策 自然に親しむために自然の中を歩きます。（散歩、遠足、ナイトハイクなど）	4 花見・紅葉狩り 春の花、秋の紅葉など四季の自然を楽しみます。
5 心身の健康のための休養 心身の健康のために自然の中に身をおき、休んだり歩いたりします。（森林浴など）	6 野生生物の調査 保護のために動物、昆虫、植物などの生物やその生息環境を調査します。	7 野生生物の保護のための繁殖、飼育 保護のために動物、昆虫などの飼育繁殖や植物の苗木育成、植え付けなどをします。	8 野生生物の保護のための生息環境の整備 保護のために動物、昆虫、植物などの生物の生息環境の整備（草刈り、落ち葉かき、伐採、植樹など）をします。
9 生物の観察・学習 動物や昆虫、植物など生物を観察・学習します。	10 環境の観察・学習 水や土、地形などを観察・学習します。	11 施設の見学 自然の中にある施設（ダムなど）を見学します。	12 林業の見学 林業作業（伐採、製材など）を見学します。
13 観察や学習のための動植物採集 観察や学習のために動物、昆虫、植物など生物を採集します。	14 燃料の採取 燃料にするためにたき木や落ち葉などを集めます。	15 工作・クラフトのための材料採取 工作やクラフトの材料にするために木、竹、木の実、草花などをとります。	16 食材の採取 食べるために山菜やキノコ、木の実、魚などをとります。
17 堆肥づくり 堆肥をつくるために落ち葉掃き（落ち葉集め）をして積みます。	18 環境整備 自然環境を整備するために剪定、伐採、草刈り、清掃などをします。	19 小屋・ツリーハウスづくり 小屋やツリーハウスをつくれます。	20 歩道作り 散策路、歩道、作業路など歩道をつくれます。

資料 1-③ 基礎プログラム 40 種カード(2)

21 遊具作り 屋外に遊具をつくりま す。(ターザンロープ、 木のブランコ、シーソー など)	22 植樹・植林 木を育てるために苗木を 植えます。	23 下刈り・下草刈り 育てる木の生長を助ける ために、周囲の草を刈り 払います。	24 枝打ち 良質な木材を得るため に、余分な枝を切り落と します。
25 間伐・除伐 森林を健全にするため に、木の間引き伐採をし ます。	26 伐採 木材を収穫するために、 木を伐採します。	27 キノコ栽培 木を伐採してホダ木をつ くり、菌を植えてキノコ を育てます。	28 炭焼き 木を伐採して炭を焼きま す。
29 工作・クラフト 木工、つる細工、竹細 工、草木染めなど自然の 素材を使った作品作りを します。	30 自然の恵みの食体験 山菜や木の実などを食べ ます。	31 キャンプ テントを張り野営しま す。	32 野外料理・食事 野外で飯ごう炊さんや自 然の素材を使った料理を して食べます。
33 創作活動 自然を対象に写真を写し たり、絵を描いたり、詩 を創作するなどします。	34 舞台芸術 自然の中でコンサートや ライブ、演劇、オペラ、 ダンスなどの舞台を演じ 鑑賞します	35 展覧会・ギャラリー 自然の中で絵や写真など の作品を鑑賞します。	36 ハイキング、登山 自然環境をいかして歩い たり、登ったりします。
37 アスレチック ロープスコース フィールドアスレチック などに挑戦します。	38 ゲレンデスキー スノーボード スキー場でスキー・ス ノーボードをします。 (ゲレンデスキー)	39 バックカントリー スキー・スノーボード ゲレンデではないところ でスキー・スノーボード をします。(バックカン トリースキー)	40 冒険コース 自然環境をいかして冒険 的な活動に挑戦します。 (沢登り、道はずれた 登山)

(大石 康彦)